

100

つなぐ「奉仕の心」これからも

2024年向陽高等学校創立100周年



風に向かって

学校法人向陽学園

歴史編集室発行

TEL0957(52)3210



2021年も「コロナ禍」での厳しい学園生活が始まりましたが、今年は、干支である丑（うし）年が意味する「発展の前触れ、芽が出る」年となるように、希望に向かってコツコツと着実に進みましょう。

本学園は、創立以来96年間、年々の卒業生の息吹のかかった学園の象徴でもある一木一石に見守られています。私達は、この伝統ある力強い木石の息吹を感じ、また新しい息吹を学園に吹き込みましょう。



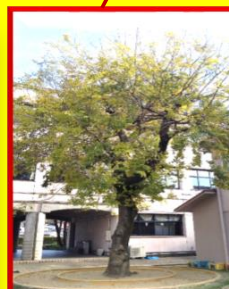
管財課スタッフです。!

向陽学園の「守り人」!

「人が環境を作り、環境は人を作る」と言われます。本学園には、創立以来約500本もの樹木があります。私達は、その学園内外の環境整備、校舎内外の施設の保全に日々従事しています。今年度は、コロナ禍での3年生の学園生活の思い出作りに工夫しました。建学の精神を胸に。下の木は、ほとんどが昭和20年以前に植樹され現在の場所に移植されました。□の木は、植樹された当時の場所と同じ場所で現在まで成長している木です。



S41年運動会（現噴水池付近）

昭和41年頃の
校舎全景

いま学園では! 「国家試験・各資格試験」合格、「進級・卒業」に向けて猛勉強中です。

「コロナに負けるな! 未来を創る君たちへ」

教頭 渡邊 徳幸

学校生活において、休校、体育祭・文化祭・修学旅行といった行事の中止。特に運動部に所属している3年生の中には、県の高校総体や各種競技大会の中止・延期となってしまうために、部活動の再開を待っている間に、事実上引退を余儀なくされた形になってしまい、不完全燃焼のまま終えた生徒も少なくないと思います。本当に残念なことです。まさかこんな時代が来るとは誰もが想像しなかった令和2年。毎日検温し、マスク着用して登校、とにかく手洗い・うがいを頻繁に行い、不要不急の外出は控え人とは距離をあげ、大声ではしゃべらない(3密・ソーシャルディスタンスなど初めて聞いた言葉)。これが令和2年の(いやひょっとしたら、からの?)「新しい生活様式」だと一体だれが想像できたでしょうか。絶望感が漂うそんな日々を過ごした一年だったように思います。



コロナに負けるな!

アルベール・カミュが書いた小説『ペスト』のなかで「絶望に慣れることは、絶望そのものより悪いのだ」と警告していました。人はどんなことにも慣れてしまう傾向にあります。絶望に慣れてはいけない、希望を失わず、困難な中でも、目標・目的をもって努力を積み重ね、愉快地に毎日を力強く生きることができると、令和3年はそれを試されているような気がします。

困難な時代を生き抜くためにも、自らの進路実現を果たしてほしいと思います。そのためには、資格を持つ事です。資格はその分野を学び・身に付けた証です。コロナ禍で求人が減少していても、「資格を持っている」ことは有利に働きます。また、就業する上でも必要不可欠です。1月から3月にかけて国家資格を受験する全員が合格するように願っています。コロナなんかには負けない、それは将来に希望を失わず、力強く生きていくこと、そのために今すべきことを諦めずに! 大変な日々はまだ続くことが予想されますが、ともに頑張っていきましょう。

KOYOファイト!

看護専攻科

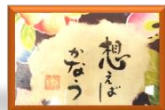
「プラス思考で看護師国家試験に挑む!」

科長 赤岩 ひろみ

2月14日に第110回看護師国家試験が実施されます。5年前、「人の役に立ちたい」「医療従事者である家族をみて、自分も使命感に満ちた看護師になりたい」と志を高く持って、この向陽高校へ入学した看護専攻科のみなさんには、何があっても全員、合格してほしいと願わずにはいられません。そのことは、本学園の先生方、外部講師の先生、実習先の病院、施設の方々も同じ思いです。また、逼迫した医療現場にいる全国の卒業生からも京都北野天満宮のお守りや、手紙を添えてのエールが贈られてきました。

今、皆さんは第3波のコロナ感染急拡大に伴い、強化学習会中止の状況で孤独な学習を強いられ、暗闇の中で「不安」を抱えていることでしょう。フィギュアスケートの羽生弓弦選手も、コロナ禍でコーチ不在の中孤独な練習を続け、こんな時だからこそ応援してくれる方々へ「感謝」の気持ちを伝えたいと願い、全日本選手権大会で見事優勝しました。どれ程の人々が彼の演技に励まされたことでしょう。

今度は看護師国家試験に挑戦するみなさんの番です。多くの方々が皆さんを応援しています。今の状況をプラス思考に変えて、暗闇から光を見つけ、その光を病める方々へかざしてください。



長崎リハビリテーション学院

長リハファイト!

「学院全員でエール!」

副学院長 井戸 佳子

東京都と周囲3県に国が緊急事態宣言を出すという異例の年明けとなりました。長崎県も拡大のステージにあり警戒警報発令中。このコロナ禍に最終学年の皆さんは国家試験を受験します。

今年度は春から感染対策のために、学内実習、リモート授業、就活はWeb面接、生活の中の消毒・換気...と学習と生活の様式が大きく変わり戸惑うことも多く大変だったと思います。しかし、その中で気づくこともありました。学内実習は臨床に必要な知識と技術をしっかり身につける時間となったこと、自らの感染対策や映像から医療職としての自覚と責任を感じ、生活の在り方を見つめなおしたこと。閉塞感の中にもありながらも、先を考えここまでたどり着きました。さあ、まだこの生活は続きますが、試験までの約一か月間は、復習を中心に、日々コンスタントに、自分がこれまでやってきたことを信じて、試験を迎えてください。

学院は感染対策を万全にして、皆さん全員が国家試験を受験することができるよう、「学院全員エール」で皆さんを送り出したいと考えています。

